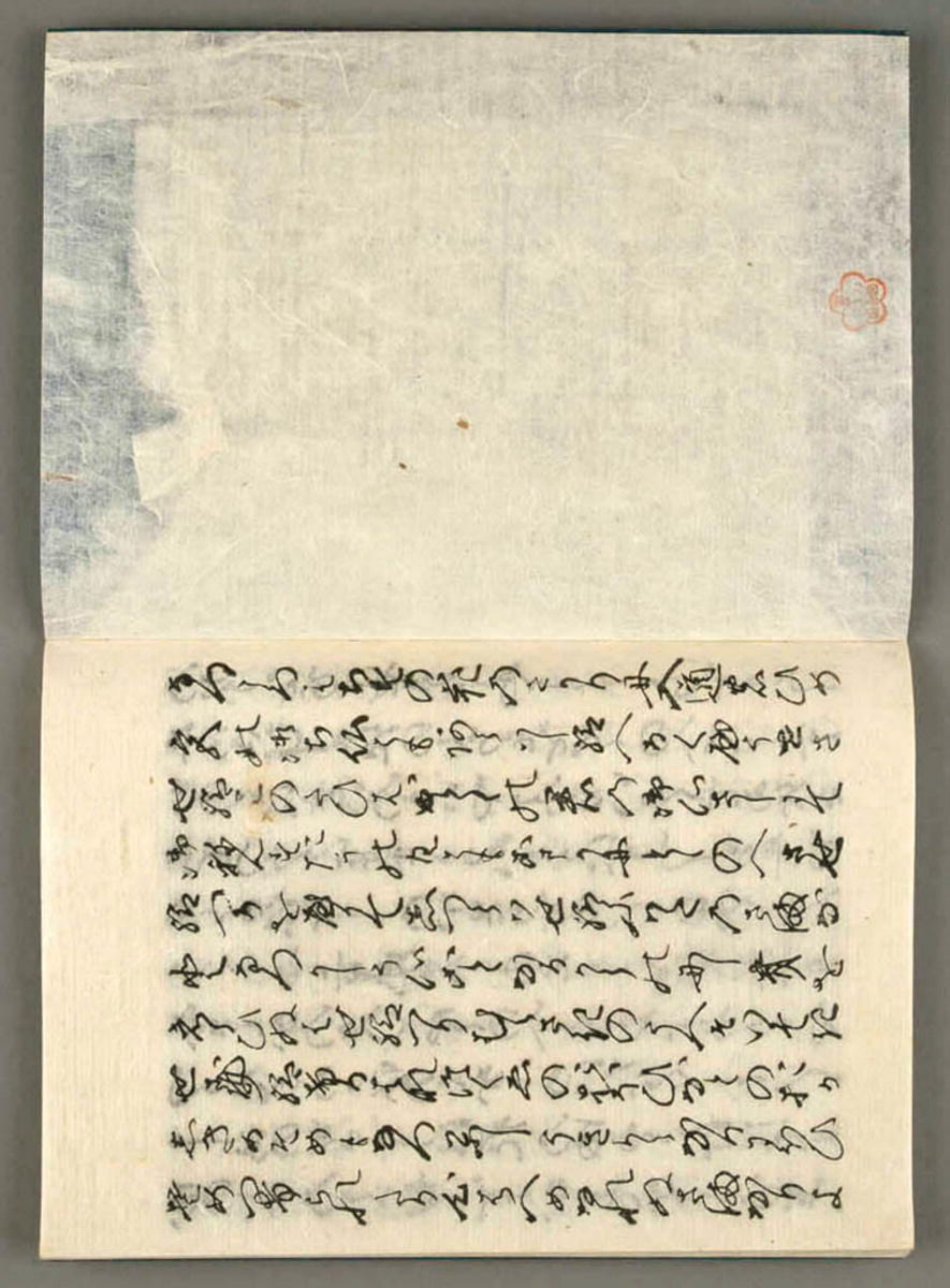
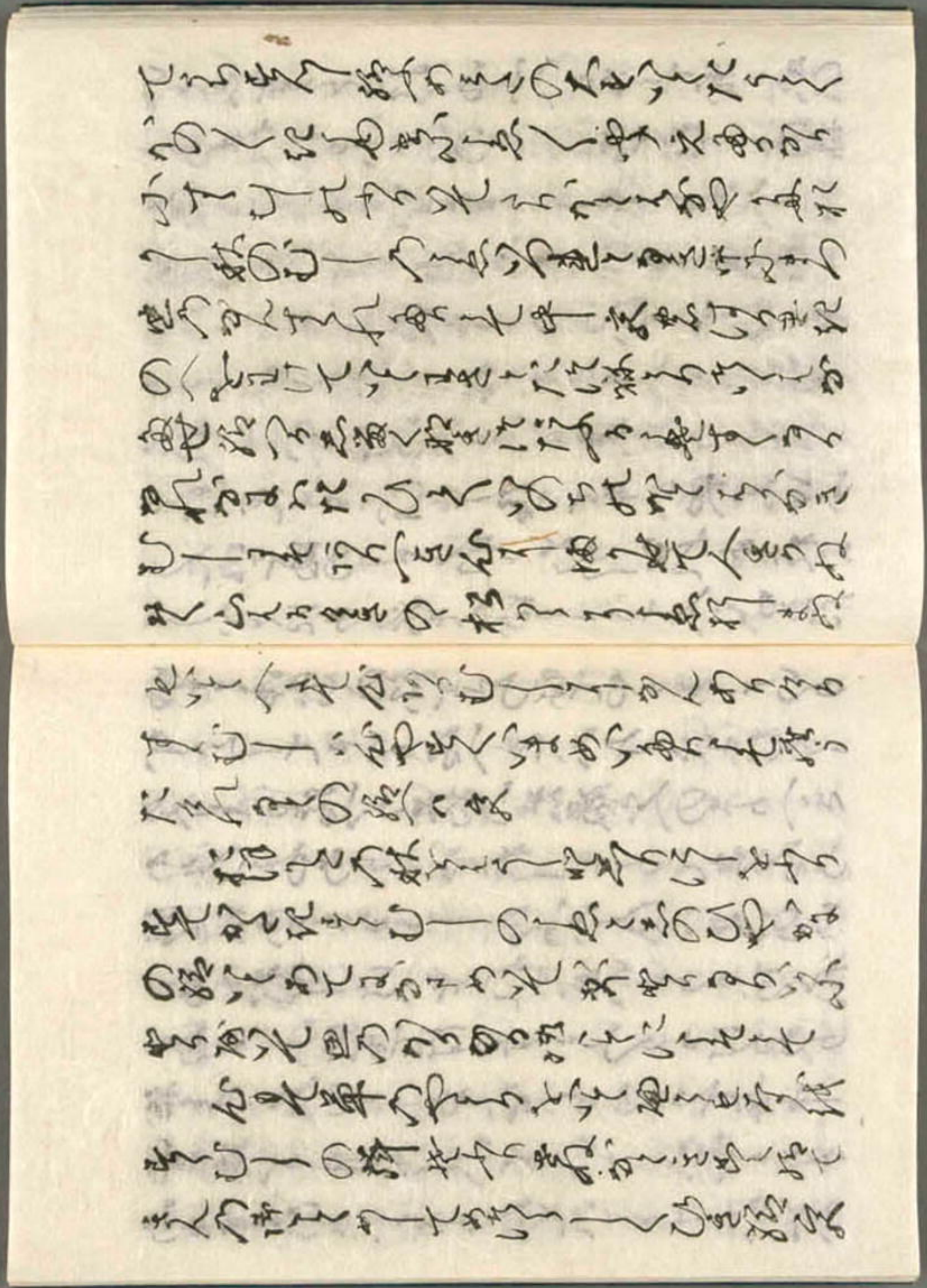
WA7
(38)
263





かりけり
雲の上はうけえなれとうすきかにも物
こゝろせぬ秋の夜の月、おもしろくてこそ
え給へらてわかはうちとゝろのかくよ
そわるすゝろすゝめてにおもしろきまに
まいりかゝることゝも聞えさせかいかき
こそうけたまはりあまりてわらかさを給ふ
かくしを給ひとてふえをおかやうかれとも
いり給ひんとす
月影も、おもしろき風の身にしみて、かくすゝろ

やくらの秋をかしきあそひはかなきかみ
きとくむしのきこえわたり海のおもしろう
つきらむかしもめりたれとも井のうちの月
給ひそらくいてよろくての御車よりいの
めくりひさき御てちんれよくらこそ
なつかりつゝらたれのひゝきされてそ給ね
院の御車よりみこえ給はの大納言殿
諸殿さいしやうなとれいの殿のみ
な御いり給ゆるまてかうらかうたれよそ
ひろもかれもてうさ給けりそをまうく